

提言

東日本大震災、熊本地震などの大災害を経験し、私たちは道路が途絶えることでささやかな日常生活でさえも営めなくなることを身にしみて知ることになりました。

また、地域創生や観光立国を推し進める中で、道路が果たす役割を再認識するようになりました。道路を造ることと併せ、あるいはそれ以上に造った道路の使い方、既存の道路の新しい使い方が問われています。

“道使い”の中で最も重要な道路行政施策は点の施策としての『道の駅』と線の施策としての『日本風景街道』です。

日本風景街道は、施策の重要性が増していながら、諸事情により十分に期待される成果を上げるに至っていません。

その要因の一つとして日本風景街道は「心＝思い」「技＝知恵・技術」「体＝組織・仕組み」を併せ持ち、磨き上げて行く必要があること。さらに、日本風景街道を継続的に発展させて行くには、運動を支える重要パートナーとして市町村の存在が不可欠であると考えています。

以上のことから、NPO 法人日本風景街道コミュニティでは、「みちのコミュニティ・シンクタンク」の設置と全国各地で日本風景街道大学を開校してきました。

さらに、日本風景街道登録ルートにパートナーとして関わる市町村が連携する場として日本風景街道自治体連絡会を設立しました。

私たちは、日本風景街道の発展のため日本風景街道大学での議論や日本風景街道自治体連絡会の意見交換をもとに以下のように提言します。

平成29年4月26日

日本風景街道自治体連絡会
会長 熊川 栄
NPO 法人日本風景街道コミュニティ
代表理事 石田東生

質の高い日本風景街道に着手するために

1. 道路・みち について

- ◆地方創生、地域づくりの基本中の基本は地域（市町村）にあり、地域（市町村）の連携には道路という媒体が不可欠である。
- ◆広域的な展開を図るとき、高速道路は点と点を結ぶ。それを線で繋ぐのが既存道路であり、単に交通量だけでなく地域に及ぼす影響と効果により新しい価値基準で既存道路の再評価をする必要がある。
- ◆道路の快適性を追求する必要がある、国際性のある道路空間にステイタスアップすることが重要になっている。
道路の景観管理などのため、活動現場から官民が協働する新たな仕組みづくりの構築が求められている。
- ◆道路協力団体が目的を十分に発揮するためには、大都市部と地方の違い、地域の特性などに配慮して運用する必要がある。

2. 日本風景街道の制度と活動について

- ◆日本風景街道を道路行政施策の中に明確に位置付ける。
- ◆日本風景街道の価値と必要性が高まっており、地方創生回廊は日本風景街道そのものであり、広域連携を実現する次のステージ、質の高い日本風景街道に着手する。
- ◆第二ステージを迎えた日本風景街道の制度目的や仕組み、運動手法、市町村、企業の位置づけなどパートナーのあり方、ルートの評価、活動費などを再考、討議する場を設ける。
- ◆日本風景街道の認知度を高めるため、道路上の表示、カーナビへの掲載方法など、日本風景街道の見える化を図る。

日本風景街道自治体連絡会

二七〇町長 片山健也

広野町長 遠藤 智

孺恋村長 熊川 栄

南砺市長 田中幹夫

白川村長 成原 茂

若狭町長 森下 裕

中海・宍道湖・大山圏域市長会会長 長岡秀人

安芸市長 横山幾夫

日南市長 崎田恭平